

第3回図書館ゼミ開催

▶周防先生は海軍にいた祖父についても話された。



志を高く持って

1月27日に本校図書館で第三回図書館ゼミが開催され、地歴公民科の周防成彦先生が「第4回司馬遼太郎講座」若者よ、志をもて！」と題して講演された。毎日司馬遼太郎さんの著書を読んでいる周防先生は参加した生徒に司馬さんの人物像と作品の魅力熱く伝えられた。

はじめに周防先生は今回のテーマを決定するまでの経緯を「このゼミのテーマを考えたとき、出たテーマ候補全てから共通して日本人とは何か？という問いが見つかった。そこでいつも読んでいた司馬遼太郎先生の作品がその問いに適していると思いついた。テーマにした」と明かされた。

司馬さんは2年間新聞社に勤められ、1960年には連載『梟の城』で直木賞を受賞、その後文壇デビューされた。筆名には司馬遷に遼に及ばざる日本の者(太郎)という意味が込められているそう。徹底した資料収集による高い

周防先生と司馬さんの作品の出会いが10年前に『酔って候』という短編集を読んだことから始まったそう。周防先生は司馬さんの人物像を経歴、作品、作風、歴史観、NHK大河ドラマとの関連の5つに分けて説明された。周防先生は司馬さんの作風を「人物中心主義で書かれている。『竜馬がゆく』の坂本龍馬や『峠』の長岡藩家老・河井継之助のように司馬さんの執筆

最後に周防先生は生徒へ向けて「進みたい大学や将来はなくて選ぶのではなく、こうしたいという志を持って選んでほしい」とメッセージを送られた。

3分間の読書を終えその感想を出し合った。そのあと周防先生が本校1、2年生に向けて行われた司馬さんに関する認知度調査の結果を発表された。

当時、あまり有名ではなかった人物を中心に書くことが多い。日本に対し、志を高く持っている人物の姿に読むうちに感情移入して自分も頑張ろうと思える」と笑顔を見せられた。司馬さんの作品については「徹底した合理主義を貫く作品が多い。司馬さんはどうして戦争と国によって死ななければならぬのかと理不尽さを覚えながら22歳で終戦を迎えられた。戦争を体験し、理不尽な仕打ちを受けた2年間が作品に活かされている」と添えられた。



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部

彦根市金亀町4番7号

周防先生紹介 司馬遼太郎の作品

-花神-

主人公は幕末に長州藩の医師で陸軍の創設に関わった大村益次郎、ヒロインはシーボルトを父に持つ楠本イネだ。合理主義的な考えの大村を楠本がほぐしていく、本格的な歴史小説でありながら、恋愛要素も含む内容になっている。1977年、NHK大河ドラマで放映された。

-坂の上の雲-

伊予の松山出身の秋山好古、真之兄弟、正岡子規が主人公。日露戦争でコサック師団を破る奇蹟を遂げた好古、バルチック艦隊を滅ぼす作戦を実施した真之、俳人正岡の三人から明治という国家を見つめる。2009年から2011年にかけてNHKでスペシャルドラマ化された。